

第3分科会

大学情報のオープン化とICT活用

2010年11月12日

大学職員情報化研究講習会

Contents

1. 大学情報のオープン化の背景
2. 公開すべき情報とステークホルダー
3. オープン化の現状と課題
4. ICTを活用した課題解決のヒント
5. まとめと今後の展開

Contents

1. 大学情報のオープン化の背景
2. 公開すべき情報とステークホルダー
3. オープン化の現状と課題
4. ICTを活用した課題解決のヒント
5. まとめと今後の展開

1-1. 大学情報をオープン化する背景等

1. ステークホルダーへの周知・深耕
2. 教職員への啓発
3. 情報公開の義務化



社会からの信頼の獲得



Contents

1. 大学情報のオープン化の背景
2. 公開すべき情報とステークホルダー
3. オープン化の現状と課題
4. ICTを活用した課題解決のヒント
5. まとめと今後の展開



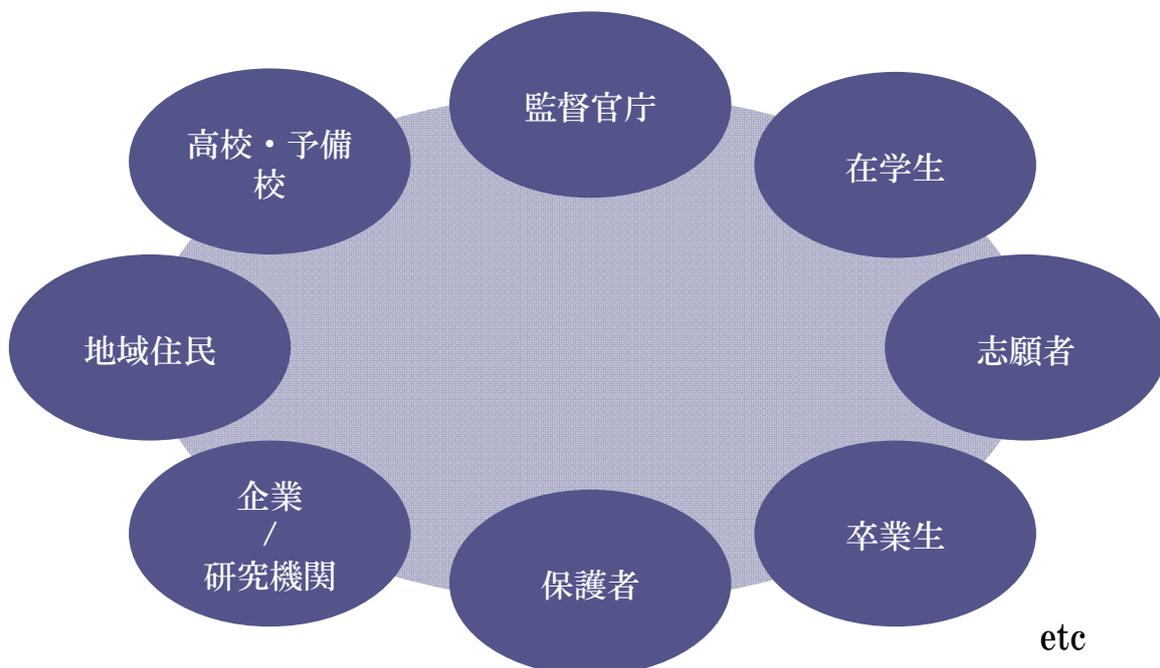
2-1. 公開すべき情報の種類 (1)

1. 学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的
2. 専任教員数
3. 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境
4. 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用
5. 教員組織、各教員が有する学位及び業績
6. 入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業(修了)者数、進学者数、就職者数
7. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画(シラバス又は年間授業計画の概要)

2-1. 公開すべき情報の種類 (2)

8. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準
(必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位)
9. 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援
10. 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する
情報等
11. 財務に関する情報 (含む募金使途)
12. 産学官連携、地域との連携
13. 大学の将来に関する計画
14. 大学に対する外部からの声、評価

2-2. オープン化の対象となるステークホルダー



Contents

1. 大学情報のオープン化の背景
2. 公開すべき情報とステークホルダー
3. オープン化の現状と課題
4. ICTを活用した課題解決のヒント
5. まとめと今後の展開

3-1. 現状の整理と課題の発見

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
		公開すべき大学の情報	①ステークホルダーへの大学情報の周知	②内部への情報提供	③情報公開義務	④広く社会の価値を得ることにつながる	⑤十分公開2点 ※WEB	⑥不十分な公開1点	⑦非公開0点	集計
1		1 学部、学科、課程、研究科、専攻ことの名称及び教育研究上の目的	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				14
2		2 専任教員数	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				13
3		3 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				11
4		4 授業料、入学科その他の大学が徴収する費用	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				14
5		5 教員組織、各教員が有する学位及び業績	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				5
6		6 入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業修了者数、進学者数、就職者数	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				8
7		7 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画シラバス又は年間授業計画の概要	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				11
8		8 学生の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準(必修・選択・自由科目別の必要単位数取得数及び取得可能学位)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				11
9		9 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				10
10		10 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報等	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				9
11		11 財務に関する情報(含む、専念授業)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				14
12		12 産学官連携、地域との連携	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				10
13		13 大学の将来に関する計画	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				10
14		14 大学に対する外部からの声、評価	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				13

コンテンツ2の現状を各大学ごとに達成度として得点化し、その多寡により課題を顕在化させる

3-2. 課題の抽出

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	公開すべき大学の情報		①ステークホルダーへの大学情報の周知	②内部への情報提供	③情報公開業務	④広く社会の注目を集めることにつながる	⑤十分な公開WEB	⑥十分な公開	⑦未公開	集計
1	公開すべき大学の情報									
2	教員組織、各教員が有する学位及び専攻		○	○	○	○	○	○	○	8
3	入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員数、在学者数、卒業生数、退学者数、就職者数		○	○	○	○	○	○	○	8
4	教育上の目的に因り学生が修得すべき知識及び技能に関する情報等		○	○	○	○	○	○	○	9
5	学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援		○	○	○	○	○	○	○	10
6	12 留学支援、地域との連携		○	○	○	○	○	○	○	10
7	13 大学の将来に関する計画		○	○	○	○	○	○	○	10
8	3 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境		○	○	○	○	○	○	○	11
9	7 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間授業計画シラバス又は年間授業計画の概要		○	○	○	○	○	○	○	11
10	8 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準、必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能単位		○	○	○	○	○	○	○	11
11	2 専任教員数		○	○	○	○	○	○	○	13
12	14 大学に対する外部からの声、評価		○	○	○	○	○	○	○	13
13	1 学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的		○	○	○	○	○	○	○	14
14	4 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用		○	○	○	○	○	○	○	14
15	11 財源に関する情報(含む資金使途)		○	○	○	○	○	○	○	14
16	10 11 集計(シナリオ) (元データ/Sheet0/Sheet0/シート)									

特に得点の低い項目を重点項目として抽出する

3-3. オープン化における留意点の検討

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z
1	公開すべき大学の情報	留意点	対応																							
2	教員組織、各教員が有する学位及び専攻	留意点	対応																							
3	入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員数、在学者数、卒業生数、退学者数、就職者数	留意点	対応																							
4	教育上の目的に因り学生が修得すべき知識及び技能に関する情報等	留意点	対応																							
5	学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	留意点	対応																							
6	12 留学支援、地域との連携	留意点	対応																							
7	13 大学の将来に関する計画	留意点	対応																							
8	3 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境	留意点	対応																							
9	7 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間授業計画シラバス又は年間授業計画の概要	留意点	対応																							
10	8 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準、必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能単位	留意点	対応																							
11	2 専任教員数	留意点	対応																							
12	14 大学に対する外部からの声、評価	留意点	対応																							
13	1 学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的	留意点	対応																							
14	4 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用	留意点	対応																							
15	11 財源に関する情報(含む資金使途)	留意点	対応																							
16	10 11 集計(シナリオ) (元データ/Sheet0/Sheet0/シート)																									

ステークホルダーごとに、留意点を検討する

3-4. 重点課題

1. 教員組織、各教員が有する学位及び業績
→教員の同意と協力が必要
2. 入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、
在学者数、卒業(修了)者数、進学者数、就職者数
→センシティブな内容の公開に関して高度な
判断が必要
3. ステークホルダーに合わせた情報発信
→インタラクティブな仕組みが必要

Contents

1. 大学情報のオープン化の背景
2. 公開すべき情報とステークホルダー
3. オープン化の現状と課題
4. ICTを活用した課題解決のヒント
5. まとめと今後の展開

4-1. ICTを活用した課題解決のヒント

1. 情報の検索性

利用者が知りたい情報を速やかに閲覧できる

具体例：サイト内検索など

2. 情報の発信

専門知識が無くても理解できる情報を発信する

具体例：動画配信など

3. 情報の相互伝達

一方的な情報発信だけでなく、利用者からのフィードバックを受け入れる

具体例：問い合わせ窓口、FAQ機能

4-2. 企業 A の取組み

・サイト内検索

検索語候補表示、検索結果にヒットしたページのサムネイルを表示(PDFも可能)



大学特有の多岐にわたる情報と多様なステークホルダーを正確に紐付けられる

4-3. 企業 B の取組み

- ・IRライブラリー・トップインタビュー
インタビュー形式の動画を配信。



予備知識が無くても、わかりやすく情報を伝えられる

4-4. 企業 C の取組み

- ・よくあるご質問
質問事項と回答をデータベース化



ステークホルダーの与件を明確化、同時にナレッジを蓄積し、適切な情報を提供し続けることで関係強化に繋げる

4-5. GRIガイドラインへの準拠（例：企業D）

項目	指標	GRI原則	報告状況
1. 戦略および分析			
1.1	経営の最上級意思決定者(99:CEO、会長または同等の上級管理職)が、経営およびその戦略と持続可能性との関係について述べた説明		○

標準的なガイドラインに準拠することにより、CSRの信頼性を担保

Contents

1. 大学情報のオープン化の背景
2. 公開すべき情報とステークホルダー
3. オープン化の現状と課題
4. ICTを活用した課題解決のヒント
5. まとめと今後の展開

5-1. まとめと今後の展開

既の実績のあるICTを活用したベストプラクティスを適用することで、簡易にオープン化を成功させることができる。

更に多くの事例を分析・適用していくことで、個々のステークホルダーに最適化された情報をオープン化できると期待できる。

補足. 次の一手

ワンソースマルチユースという概念

一つの情報をマルチメディア（Web／印刷／CD-ROM など）へ出力する事が求められている。 ※別紙詳細

例) 融合ソリューション

